

テモテへの手紙二

～堀川寛による広島弁訳～

(広島弁訳の意味) (訳者の解説・蛇足)

第1章

キリスト・イエス様にある永遠の命の約束のおかげで、神様のご意志によって使徒としてもうろうたパウロから、愛する子テモテへ。父なる神様とわしらの主キリスト・イエス様から、恵みと憐れみ、そして平安があるように。

わしは、昼も夜も祈るたんび(度)にあんたのことを思い起こし、先祖代々清い良心にしたごうて(従って)仕えてきた神様に感謝しよる。わしはあんたの涙を忘れることができんけえ、何とかしてあんたにおうて(会って)喜びたい思うとる。ほいで、あんたの純粋な信仰を思い出しとる。あんたの信仰は、あんたのおばあちゃんのロイスとお母さんのエウニケに宿り、あんたにも宿った。わしが接手したときに与えられた神様からの賜物をもう一回燃えたたしんさい。

神様がわしらにくれんさったん(下さったのは、おそれ(おくびょう)の霊じゃのうて、力と愛と自制の霊じゃ。ほいじゃけえ、わしらの主を証しすることも、わしが主の囚人であることも恥ぢやあいけん。むしろ、神様の力に支えられて、福音のためにわしと苦しみを共にしてくれんさい。神様がわしらを救い、聖なる招きによって呼び出してくれんさったんは、わしらの働きのせいじゃのうて、ご自身の計画と恵みのお蔭じゃ。この恵みは、(実は)永遠の昔からキリスト・イエス様によってわしらに与えられることになった。ほいで今、わしらの救い主キリスト・イエス様が現れて確かになったんじゃ。キリスト様は死を滅ぼし、福音によって命と不死をもたらしてくれんさった。この福音のために、わしは宣教者、使徒、教師に任命された。そのせいでわしはこがいな(このような)苦しい目におうとる(あっている)んじゃが、それを恥じとりやあせん。そりゃあもう、わしは自分が信頼しとる方をよう知つとるし、わしに委ねてくれんさったも

んを、その方が最後まで守ってくれんさると確信しとるけえじゃ。あんたは、わしから聞いたキリスト・イエス様にある信仰と愛を手本としんさい。あんたにゆだねられとる大切なもんを、あんたの内に宿つとられる聖霊によって守りんさい。

あんたも知つとるように、アジア州のもんらは皆、わしから離れていった。そん中にはフィゲロとヘルモゲネスがおる。主がオネシフォロの家族を憐れんでくれんさるように。あんには(彼は)、わしをよう励ましてくれただけじゃのうて、わしが囚われの身であることを恥とも思わず、ローマに来たおりに、わしを必死で探し、見つけ出してくれたんじゃ。どうか、かの日(終末)には、主があんに憐れみを授けてくれんさるように。彼がエフェソでどんだけわしによう仕えてくれたか、あんたが一番よう知つとろう(知っているよね)。

第2章

ほいじゃけ(それだから)、わしの子(テモテ)よ、あんたはキリスト・イエス様ある恵みによって強うしてもらいんさい。ほいで、多くの証人らの前でわしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる信頼できるもんらにゆだねんさい。キリスト・イエス様の良い兵士として、わしと一緒にたたこうて(戦って)くれ。兵役に服しとるもんは日常生活に煩わされちゃあいけん。指揮官(イエス様)を喜ばせることに専念せにゃあ。競技に勝つには、競技の規則を守らにゃあいけん。苦勞した農夫こそ、最初の収穫をもらうべきじゃ。わしの言うことを、よう考えてみんさい。主は、あんたがすべてのことを理解できるよう助けてくれてじゃけえ。

ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえられたイエス・キリスト様のことを、よう心に刻みんさい。これこそがわしの伝えとる福音じゃ。今はこの福音のためにわしは犯罪者のように鎖につながれとる。じゃが、神様の言葉はつながれとらん。わしは、選ばれたもんらのためならどんなことでもがまんする。永遠の栄光であるキリスト・イエス様による救いをみんなと一緒に受けるためじゃ。この言葉は信頼できる。

「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、
キリストと共に生きるようになる。
耐え忍ぶなら、
キリストと共に支配するようになる。
キリストを否むなら、
キリストもわたしたちを否まれる。
わたしたちが誠実でなくても、
キリストは常に真実であられる。
キリストは御自身を
否むことができないからである。」

これらのことを信徒の心によく刻みんさい。それから、互いに言葉の争いをせんように、神様のみ前できびしゅう命じんさい。そがいなことは、役に立たんどころか、聞くもらをつまづかせるけえじゃ。あんたは、真理のみ言葉をきちんと伝えるのにふさわしい、どこへ出しても恥づかしゅうない働き人になれるよう、精進しんさい。いなげな(間違った)教えに耳を貸しちゃあいけん。そがいな話をすると信仰が弱ってしまうけえ。気をつげんとガンのように広がるけえのう。ヒメナイとフィルトのことを覚えとろう。あんならば、(終末に起こる義人の)復活が既に起こった言うて、人々をつまづかしとる。ほいじゃが、神様が据えてくれんさった堅固な土台はゆるぎやあせん。「主はご自分の民を知っておられる」「主の名を呼ぶ者は皆、不義から離れなければならぬ」と刻まれとる。

話は変わるが、大きい家には、金や銀の器ばかりじゃのうて、木や土の器もある。一方は貴いことに、他方は普通のことに使う。わしらも同じじゃ。主の貴い御業に用いられたかったら、悪事から離れ、身を清うたもたんにゃあいけん。清い器となって、ご主人様にとって役に立つもんになるんじゃ。そのためには、若い頃の情欲を捨て、清い心で主を求めとるもんらと共に、正義と信仰と愛と平和を追い求め続けんさい。愚かで無益な議論は避けんさい。争いのもとになるだけじゃ。主の僕たるもんは、争わず、すべての人に親切で、教えることができ、我慢強く、逆らうもんを優しく教え導かんにゃあいけん。神様はあんいらを悔い改めさせ、真理を悟らせてくれんさるかもしれん。

れん。今は悪魔に捕らえられ、操られとつても、いつの日か目が開かれて畏から逃げられるかもしれん。

第3章

終わりの日にはやねこい(困難な)時が来ることを知っときんさい。その時人々は、自分だけを大切にし、金に執着し、平気で嘘をつき、高ぶり、神様をバカにし、親を軽んじ、恩知らずで、聖なるものをないがしろにする。また、人情に薄く、人を赦さず、陰口をたたき、節度が無く、残忍で、善を好まず、平気で裏切り、乱暴で、思い上がり、快楽にふけり、信心深いふりをして、実は何も信じとらん。こういう連中に近づいちゃあいけん。

ほいじゃがあんたは、わしの教え、行動、志、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、アンティオキア、イコニオン、リストラでわしにふりかかったような迫害や迫害をものともせんかった。わしらは迫害に耐え、主が救い出してくれんさった。キリスト・イエス様にあつて信心深く生きようとするもんは、確かに迫害を受ける。悪人や詐欺師は、だまされたりだまされたりしながら、ますます悪に落ちていく。ほいじゃがあんたは、学んで確信したところから離れちゃあいけん。あんたはそれを誰から学んだか忘れとらんじゃろう。あんたは小さい頃から聖書に親しんできた。この書物は、キリスト・イエス様への信仰を通して救われる知恵をあんたに与えることができる。聖書は、神様の霊に満ちており、人を教え、戒め、矯正し、義しく(ただしく)するために大いに役立つ。神の人を、あらゆる善い業にふさわしく整えるためじゃ。

第4章

神様の御前で、そして、生者と死者を裁かれるキリスト・イエス様の御前で、その現れとその御国を思いつつ、厳かに命じる。御言葉を宣べ伝えんさい。時がよう(良い)ても悪うてもしつかりやりんさい。忍耐づよう教えながら、ただし、警告し、励ましんさい。健全な教えに誰も耳を貸さんようになる時が来る。そんなとき、人々は自分に都合の

ええ(良い)話だけを聞こうと、好みの教師の後を追いかけて、真理から耳を背け、作り話にそれで行くようになる。ほいじゃがあんたは、いかなる場合でもしゃきつとして、困難に耐え、伝道者としての務めを果たしんさい。わし自身は、とっくにすべてを献げとるが、世を去るのも間近に迫っとる。わしは、勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り抜いた。あとは、義の栄冠を受けるだけじゃ。来たる日には、正しい審判者である主が、それを授けて下さる。もちろんわしだけじゃのうて、主が来られるのを待ち焦がれとるもんには、もれなく授けて下さる。

とにかく、速うわしのところへ来てくれえ!デマスはこの世を愛し、わしを見捨てて出て行ってしまった。クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに行ってもろうとる。ルカだけはわしとところにおる。ほうじゃ!マルコを連れて来てくれんか。あんには(彼は)よう役に立つんじゃ。わしはティキコをエフェソに遣わした。あんたが来るときにゃあ、わしがトロアスのカルポのところに入れてきた外套を持ってきてくれえ。ほいで、書物、特に羊皮紙のもんを持ってきてくれえ。銅細工人アレクサンドロにはひどい目におおた。主は、その仕業に応じて報いてじゃろう。あんたも、あんには用心せえよ。あんにはわしらの語ることにえらいこと逆らいよった。

最初の裁判の時、誰もわしの弁明を支持せず、皆わしを見捨てた。ほいじゃがわしは責めようとは思わん。わしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわしのそばにおって、力づけてくれんさった。ほいで、わしを最悪の状況から救い出されたんじゃ。主はわしをあらゆる悪巧みから助け出し、天にあるご自分の国に迎え入れてくれんさる。主に栄光がとこしえにありますように。アーメン。

プリスカとアキラに、そしてオネシフォロの家のもんらによろしゅう言うてつかあさい(下さい)。エラストはコリントにとどまった。トロフィモは病氣じゃけえミレトスに残してきた。冬になる前に何とかして来てくれえ。エウプロ、プデンス、リノス、クラ

ウディア、およびすべての兄弟があんたによろしゅう言うとる。主があなたの霊と共にあってくれんさるように。恵みがあなたらと共にあるように。